



2019年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月13日

上場会社名 株式会社ソディック 上場取引所 東
 コード番号 6143 URL https://www.sodick.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 古川 健一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 前島 裕史 TEL 045-942-3111
 四半期報告書提出予定日 2019年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期第3四半期の連結業績（2019年1月1日～2019年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第3四半期	49,707	△20.6	2,746	△66.7	2,577	△68.1	1,177	△79.1
2018年12月期第3四半期	62,577	—	8,253	—	8,088	—	5,632	—

(注) 包括利益 2019年12月期第3四半期 △340百万円 (—%) 2018年12月期第3四半期 4,702百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第3四半期	25.05	21.51
2018年12月期第3四半期	119.92	102.97

当社は、2017年6月29日開催の第41回定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されたことを受け、2017年度より決算日を3月31日から12月31日に変更いたしました。これに伴い、2018年12月期第3四半期と比較対象となる2017年12月期第3四半期の期間が異なるため、2018年12月期第3四半期の対前年同四半期増減率につきましては記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年12月期第3四半期	114,445	56,701	49.5	1,203.42
2018年12月期	119,082	58,129	48.7	1,235.46

(参考) 自己資本 2019年12月期第3四半期 56,612百万円 2018年12月期 58,033百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年12月期については遡及適用後の数値を記載しています。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	—	12.00	—	12.00	24.00
2019年12月期	—	12.00	—		
2019年12月期（予想）				13.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年12月期の連結業績予想（2019年1月1日～2019年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	67,000	△19.0	3,400	△65.6	3,100	△67.8	1,500	△76.8	31.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年12月期3Q	53,450,916株	2018年12月期	53,450,916株
② 期末自己株式数	2019年12月期3Q	6,407,739株	2018年12月期	6,477,947株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年12月期3Q	47,010,525株	2018年12月期3Q	46,972,706株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。なお、予想数値に関する事項については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に緩やかな回復基調となりましたが、米中貿易摩擦の長期化等により先行きの不透明感が一段と強まる展開となりました。海外経済においては、米国では雇用環境の改善や個人消費を背景に底堅く推移したものの製造業の景況感は悪化しており、欧州でも英国のEU離脱問題が混迷する中、製造業を中心に景気減速が継続しました。中国でも米国との貿易摩擦の影響により輸出の減少や設備投資が慎重化するなど景気が減速したほか、アジア経済も地域ごとに濃淡はありますが、やや弱さが見られました。

このような事業環境の中、当社グループの経営成績は次のとおりとなりました。

〔工作機械事業〕

北米では航空宇宙関連、医療機器関連が引き続き堅調に推移しましたが、当社の最大市場である中国をはじめ、全世界的に米中貿易摩擦の影響が長期化しており、スマートフォン関連向けの落ち込みの継続及び比較的堅調だった自動車関連の需要も回復しておらず、売上高は前年同期比で大幅に減少しました。

セグメント利益は販売台数の減少に伴う工場稼働率の低下や固定費の増加等により前年同期比減益となりました。

〔産業機械事業〕

米中貿易摩擦による設備投資判断の先送りにより国内外で設備投資の鈍化が継続し、スマートフォン及び電子部品関連の需要は日本や中国及びアジア地域で依然として一服感が見られました。一方で足元では国内の自動車関連の需要が見られたほか、光学レンズの成形や防水対応用シリコン成形機の需要、5G対応に向けたインフラ整備に関する需要が出始めています。

〔食品機械事業〕

各種製麺機、麺製造プラント、無菌包装米飯製造装置などの開発・製造・販売、その保守サービスを行っております。高品質な調理麺の製造設備需要が引き続き堅調に推移したほか、無菌包装米飯製造装置の需要も国内外で増加しています。また、衛生面や省人化を目的とした自動化設備の需要も拡大しましたが、主要な案件の検収が第4四半期に集中しており、販売は伸び悩みました。

〔その他〕

精密コネクタなどの受注生産を行う精密金型・精密成形事業、リニアモータやセラミックス部材など独自の技術を活かした製品及びLED照明機器の開発・製造・販売を行う要素技術事業から構成されております。精密金型・精密成形事業は足元で需要は回復傾向ではあるものの、セラミックス等は需要の減少が継続しました。

利益面では、中長期的な事業拡大に向けた製造設備の能力増強や自動化対応のための研究開発投資が先行し、収益性は回復していない状況が続いております。

当社グループの主な取組としては、国内外の展示会に出展しソディックブランドの強化を図りました。海外ではドイツ・ハノーバーで開催された世界的な工作機械展示会EMO 2019（国際金属加工見本市）にリニアモータ駆動高速・超精密ワイヤ放電加工機「ALC400P」や欧州では初出展となるサーボモータ駆動による安定した高精度成形をハイサイクルで実現する電動式横型射出成形機「MS100」等を出展し、シェア拡大に向け積極的な営業活動を展開しました。東京ビッグサイトにて開催されたFOOMA JAPAN 2019（国際食品工業展）には新たに開発した「粉体冷却装置」を初出展しました。製菓業界で課題となっている生地原材料の温度調整に対して、当製品の開発により原材料を迅速・均一に冷却、既存の製造設備と連続した自動運転が可能となります。従来の主要顧客である製麺、米飯業界に加え、製パン、製菓業界へ積極的な事業展開を進めてまいります。

また、研究開発において主要事業である工作機械事業では、大型金型の加工に適した大型彫り放電加工機「AG200L」を開発しました。加工寸法を従来の大型放電加工機比約2倍に拡大し、近年自動車関連を中心に需要が拡大する大型でより複雑な金型の加工に対応可能となります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高497億7百万円（前年同四半期比20.6%減）、営業利益27億46百万円（前年同四半期比66.7%減）、経常利益25億77百万円（前年同四半期比68.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は11億77百万円（前年同四半期比79.1%減）となりました。

セグメントの経営成績は以下のとおりであります。

[売上高の内訳]

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	増減	
			(金額)	(率)
工作機械事業	45,117	34,498	△10,618	△23.5%
産業機械事業	7,736	7,242	△493	△6.4%
食品機械事業	4,934	3,470	△1,464	△29.7%
その他	4,789	4,496	△292	△6.1%
売上高 合計	62,577	49,707	△12,869	△20.6%

[セグメント利益の内訳]

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	増減	
			(金額)	(率)
工作機械事業	8,033	3,564	△4,469	△55.6%
産業機械事業	604	218	△386	△63.9%
食品機械事業	618	369	△248	△40.2%
その他	931	236	△695	△74.6%
調整額	△1,935	△1,643	292	—
営業利益 合計	8,253	2,746	△5,507	△66.7%

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末と比較して、46億37百万円減少し、1,144億45百万円となりました。主な減少要因としては、受取手形及び売掛金の減少22億57百万円、減価償却累計額の増加16億95百万円などがあげられます。

また、負債は前連結会計年度末と比較して、32億9百万円減少し、577億43百万円となりました。主な減少要因としては、その他の流動負債の減少18億13百万円、長期借入金の減少12億16百万円などがあげられます。

純資産は前連結会計年度末と比較して、14億28百万円減少し、567億1百万円となりました。主な減少要因としては、為替換算調整勘定の減少13億36百万円などがあげられます。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年8月2日に公表いたしました業績予想の修正を行っております。詳細につきましては、本日2019年11月13日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	33,546	34,010
受取手形及び売掛金	14,972	12,715
電子記録債権	1,545	1,298
商品及び製品	9,774	8,998
仕掛品	8,661	8,768
原材料及び貯蔵品	8,809	7,847
その他	2,807	2,309
貸倒引当金	△171	△223
流動資産合計	79,946	75,725
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	26,262	27,836
機械装置及び運搬具	20,059	20,584
その他	13,216	13,048
減価償却累計額	△28,626	△30,322
有形固定資産合計	30,912	31,147
無形固定資産		
のれん	1,642	1,521
その他	902	798
無形固定資産合計	2,544	2,319
投資その他の資産		
その他	5,797	5,581
貸倒引当金	△117	△328
投資その他の資産合計	5,679	5,252
固定資産合計	39,136	38,719
資産合計	119,082	114,445

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,855	4,498
電子記録債務	5,969	4,907
短期借入金	4,106	3,687
1年内返済予定の長期借入金	7,777	9,251
未払法人税等	535	135
引当金	1,064	1,307
その他	7,496	5,682
流動負債合計	31,804	29,469
固定負債		
社債	7,981	7,981
長期借入金	19,659	18,443
引当金	301	276
退職給付に係る負債	609	752
資産除去債務	68	63
その他	528	756
固定負債合計	29,148	28,273
負債合計	60,953	57,743
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,785	20,785
資本剰余金	5,877	5,896
利益剰余金	32,823	32,850
自己株式	△4,698	△4,647
株主資本合計	54,788	54,884
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	967	827
為替換算調整勘定	2,513	1,177
退職給付に係る調整累計額	△236	△276
その他の包括利益累計額合計	3,244	1,728
非支配株主持分	96	88
純資産合計	58,129	56,701
負債純資産合計	119,082	114,445

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
売上高	62,577	49,707
売上原価	39,209	33,227
売上総利益	23,368	16,480
販売費及び一般管理費		
人件費	5,707	5,632
貸倒引当金繰入額	24	54
その他	9,382	8,047
販売費及び一般管理費合計	15,114	13,734
営業利益	8,253	2,746
営業外収益		
受取利息	170	180
受取配当金	44	219
持分法による投資利益	17	17
助成金収入	146	94
その他	211	145
営業外収益合計	588	656
営業外費用		
支払利息	235	214
為替差損	239	262
役員弔慰金	193	—
貸倒引当金繰入額	—	260
その他	85	88
営業外費用合計	753	825
経常利益	8,088	2,577
特別利益		
固定資産売却益	20	8
その他	—	3
特別利益合計	20	12
特別損失		
固定資産売却損	7	114
固定資産除却損	12	30
関係会社株式評価損	51	44
関係会社出資金評価損	—	89
その他	1	2
特別損失合計	71	282
税金等調整前四半期純利益	8,038	2,307
法人税、住民税及び事業税	2,238	720
法人税等調整額	148	404
法人税等合計	2,386	1,124
四半期純利益	5,651	1,182
非支配株主に帰属する四半期純利益	18	5
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,632	1,177

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	5,651	1,182
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△104	△139
為替換算調整勘定	△736	△1,333
退職給付に係る調整額	△110	△40
持分法適用会社に対する持分相当額	2	△9
その他の包括利益合計	△948	△1,523
四半期包括利益	4,702	△340
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,690	△338
非支配株主に係る四半期包括利益	11	△1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社ソディックエフ・ティを存続会社、株式会社ソディックLEDを消滅会社とする吸収合併を行うことを決議し、2019年1月1日付で吸収合併いたしました。

これに伴い第1四半期連結会計期間より、株式会社ソディックLEDを連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(譲渡制限付株式報酬制度の導入)

2019年2月14日開催の当社取締役会において、当社の取締役(社外取締役を除く。以下、「対象取締役」という。)が、株価変動のメリットとリスクを株主の皆様と共有し、株価上昇及び企業価値向上への貢献意欲を従来以上に高めることを目的とし、対象取締役に対し、譲渡制限付株式報酬制度を導入することを決議いたしました。

また当社は、2019年4月19日開催の当社取締役会において、自己株式の処分を行うことを決議し、2019年5月8日に払込が完了いたしました。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年1月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	工作機械	産業機械	食品機械	報告 セグメント 計				
売上高								
外部顧客への売上高	45,117	7,736	4,934	57,788	4,789	62,577	—	62,577
セグメント間の内部 売上高又は振替高	92	93	—	186	2,491	2,677	△2,677	—
計	45,210	7,829	4,934	57,974	7,280	65,255	△2,677	62,577
セグメント利益	8,033	604	618	9,257	931	10,189	△1,935	8,253

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、精密金型・精密成形事業、要素技術事業、リース事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△19億35百万円には、セグメント間取引消去△18百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△19億17百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社機能に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	工作機械	産業機械	食品機械	報告 セグメント 計				
売上高								
外部顧客への売上高	34,498	7,242	3,470	45,211	4,496	49,707	—	49,707
セグメント間の内部 売上高又は振替高	30	110	—	140	1,673	1,813	△1,813	—
計	34,528	7,353	3,470	45,351	6,169	51,521	△1,813	49,707
セグメント利益	3,564	218	369	4,153	236	4,389	△1,643	2,746

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、精密金型・精密成形事業、要素技術事業、リース事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△16億43百万円には、セグメント間取引消去80百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△17億23百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社機能に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。